Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

術前術後AFP-L3分画は肝細胞癌術後早期および長期経過後の再発予測に有用である

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 阪井, 守 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/31346

主 論 文 の 要 約

術前術後 AFP-L3 分画は肝細胞癌術後早期および長期経過後の再発予測に有用である

東京女子医科大学消化器外科学教室
（主任：山本雅一教授）
阪井　守

東京女子医科大学雑誌　第 85 巻　第 1 号　9 頁～15 頁（平成 27 年 2 月 25 日発行）に掲載

【目　的】

Lens culinaris agglutinin-reactive fraction of α-fetoprotein （AFP-L3 分画）は α-fetoprotein （AFP）や Protein Induced Vitamin K Absence-Ⅱ (PIVKA-Ⅱ)とともに肝細胞癌（hepatocellular carcinoma ： HCC）の特異的なマーカーであるが、術後再発との関連はまだ十分には検討されていない。AFP-L3 分画により HCC の術後再発を予測することが可能か否かをみるために、術前術後の L3 分画と早期および長期経過後の術後再発との関連を検討した。

【対象および方法】

対象は当施設で施行された HCC 初回切除 154 例で、術前に測定した L3 分画（術前 L3 分画）および術後 6 ヶ月以内に測定した L3 分画の最低値（術後 L3 分画）を 3 群（Ⅰ；<0.5%、Ⅱ；0.6 - 9.9% 、Ⅲ；≥ 10%）に分類し、術後 1 年以内における早期再発および術後 1 年以降に再発した長期経過後の再発生存率との関連について検討した。なお、術後の平均観察期間は 40.8 カ月(1.2 カ月～170.7 カ月)であった。血清 L3 分画の測定法は Lens culinaris lectin-affinity electrophoresis kit (Wako Pure Chemicals)を用いており、<0.5%は L3 値の測定感度以下を意味している。また、10%は L3 分画の cut-off 値であり、≥ 10%は異常値を意味している。

【結　果】

１）術後１年以内再発の検討

術前・術後 L3 分画 3 群間と再発率とは有意の関連を認めた(p<0.01)。術後 L3 分画についてはⅢ群で 100％の再発率を示したがⅡ群でも約 40％の再発率を示した。術前 L3 分画についてもⅡ群の 50.0％が再発し、Ⅲ群 51.2％と同等の再発率を示した。

２）術後１年以降経過後再発の検討

術後 L3 分画については 3 群間で有意差を認めた(p<0.05)。しかし、術前 L3 分画についてはⅠ群と他の２群間には有意差を認めた（p<0.05）が、Ⅱ群とⅢ群の間には有意差を認めなかった。

【考　察】

L3 分画を 3 群に分けて詳細をみることは再発のリスクを考慮する上で重要な指標となる。L3 分画が正常値内でも、0.6％以上では術後早期ならびに長期経過後再発の可能性があることを念頭におき経過観察を行うべきである。

【結　論】

AFP-L3 分画は HCC 術後再発のリスクを予測する有用な腫瘍マーカーと考えられる。